



児玉希望《枯野》左隻部分 本館蔵

美をつくし

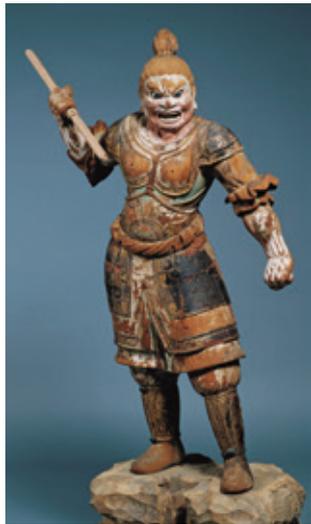
vol. 194

大阪市立美術館だより
令和2年10月1日発行

MI WO TSUKUSHI
WI MO IZUKUSHI

天平礼賛 — 高遠なる理想の美

2020年10月27日(火) — 12月13日(日)



A



B



C



D



G



E



F



H



I



J

- A 重要文化財 執金剛神立像 快慶作 鎌倉時代・12-13世紀 京都・金剛院
- B 菩薩坐像(部分) 奈良時代・8世紀 神奈川・龍華寺(神奈川県立金沢文庫保管)
- C 阿弥陀如来坐像(部分) 奈良・江戸時代・8/17世紀 兵庫・金蔵寺
- D 執金剛神立像 竹内久一作 明治26年(1893) 東京国立博物館
- E 黄地唐花文夾縹羅(正倉院伝来) 奈良時代・8世紀 東京国立博物館
- F 淡縹地唐花文錦(正倉院伝来) 奈良時代・8世紀 東京国立博物館 (D-F Image:TNM Image Archives)

- G 重要文化財《天平の面影》 藤島武二作 明治35年(1902) 石橋財団アーティゾン美術館(旧ブリヂストン美術館)
- H 十種銘香のうち 蘭奢待 東南アジア・8世紀か 徳川美術館(©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom)
- I 国宝 賢愚経(部分) 奈良時代・8世紀 公益財団法人 白鶴美術館
- J 重要文化財 東大寺戒壇院厨子扉絵図像(部分) 平安時代・12世紀 奈良国立博物館 (A・J 画像提供 奈良国立博物館(森村欣司撮影・佐々木香輔撮影))

天平 —— ノスタルジーすら覚えるその響きは、ひとつの元号であることを超越して奈良時代そのものを象徴して私たちの胸に迫ります。本展では、この天平美術をテーマに国宝5件・重要文化財23件を擁する100件余りの作品をご紹介します。時代は古代から近現代に至り、絵画・彫刻・工芸・書蹟といった多岐にわたるジャンルによる夢の競演です。

信仰に裏付けされた造形の継承と古像に着想を得た新たな創作(図A・D)、天平写経(I)とそれを劈頭に飾る手鑑の文化、天下の名香として誉れ高い香木・蘭奢待(H)をめぐるものごたり、頒布された正倉院裂(E・F)の行方、そして理想の美人としての樹下美人図(G・J)の系譜など、作品が紡ぎだすのは天平美術を礼賛し続けてきたこの国の文化と歴史です。

また、難波宮跡や四天王寺など大阪における天平の美にもご注目ください。さらに、兵庫・金蔵寺の阿弥陀如来像(C)と神奈川・龍華寺の菩薩像(B)は、かつてともに大阪に安置されていた可能性が指摘されています。この貴重な天平の乾漆仏が大阪で歴史的邂逅を遂げます。こうした作品相互のつながりを感じられる展示構成も本展の見どころです。

日本人の美意識のひとつの核であり続けた天平美術。それは天然痘が蔓延する中で生まれた究極の美が生き続けた証でもあります。岡倉天心が「高遠なる理想美」と呼んだ日本の古典の美の世界とそれを礼賛した歴史を、価値観が多様化し世界的に感染症が広まるいまこそ、ぜひご堪能ください。

(児島大輔)

※会期中展示替えがあります。詳細は当館HPをご覧ください。

「白磁 牡丹文蓋物」の施文技法について



図1 「白磁 牡丹文蓋物」伊万里焼
江戸時代・17世紀後半 本館蔵(岩田久子氏寄贈)

「白磁 牡丹文蓋物」(図1)は17世紀後半につくられた伊万里焼である。蓋表と身にはふんだんに咲き乱れる牡丹文と岩文を陽刻状(※)にあらわす。伊万里焼の皿や鉢では陽刻文は内面に施されることが多いのに対し、本作では外面に施されている点で特異である。本誌191号(2019.3)の表紙作品紹介では、「ろくろ挽きの後、型に押し当てて陽刻文を施し」と解説したが、改めてその施文技法について検討したい。

17世紀後半の伊万里焼では、型打ち成形という、ろくろ挽きの後にドーム状の土型にかぶせて型の形や文様をうつしとる技法が盛んに行われていた。本作のボディに

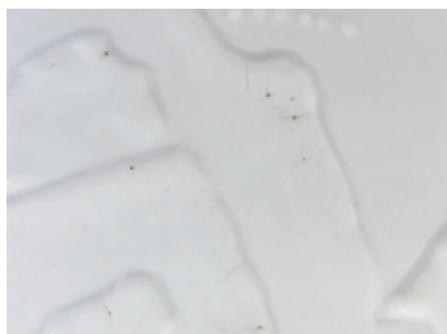


図2

はろくろ挽きの痕跡が見られ、陽刻部分には亀裂が多く入っている(図2)。型の使用によって、素地が引っ張られて裂けることはよくある現象である。このような時代の特徴や作品の特徴から、当初は前掲のとおり型による施文とみなすのが妥当であろうと判断した。

しかし、型打ち成形ではうつわの内面に陽刻文ができるため、本作では逆にうつわの外側から土型を押し当てる方法を想定しなければならない。しかしこれではボディが歪み、ろくろ挽きした意味がなくなるという。生産地である佐賀県有田町でもそうした土型は発見されていない。そのほか、伊万里焼で多用される技法ではないが、型を使って外面に陽刻文をあらわす陶芸技法として貼花技法も検討してみたが、これも当てはまらない。なぜならば、貼花技法は型抜きした陽刻文をボディに貼りつけるため、陽刻文全体に一定の厚みができる。それに対し、本作の陽刻文には起伏があり、低い部分では厚みがなくボディの器表と同じ高さになっているからである。したがって、具体的な型の形や使い方にまで考えを巡らせてみると、「型」による施文の可能性はむしろ低いという結論に至ったので、前掲の解説を訂正したい。

それでは、どのようにして施文されたのだろうか。改めて本作の特徴に注目すると、牡丹の枝の陽刻文は比較的直線的で、折れ

曲がったり、枝分かれしたりする部分では、結節点が盛り上がっていることが分かる(図3)。このことから、枝についてはイチチンと呼ばれる白泥(素地土を泥漿状にしたもの)を絞り出して立体的な線条文をあらわす技法によるものと判断できる。絞り出した線条文が重なる結節点は、二重の厚みになるからである。これを踏まえて岩や牡丹などの陽刻文を見ると、花卉や葉の先端などに白泥が溜まっている部分があることに気付く。これは起筆・終筆部分にできた墨溜まりのようなものだろう。つまり、線形の枝のみならず岩や牡丹などある程度面積が広い陽刻文についても白泥を盛り上げてあらわしたものと推測される。文様部分の亀裂については、ボディと素地土の収縮率(収縮速度)の違いから生じたものとみなすことができるだろう。粘土素地は乾燥とともに水分が抜けて収縮する特性があるため、陽刻文とボディで異なる種類の素地土を用いていた、素地土の水分含有量に違いがあったりすると、ひび割れが生じるものである。本作の亀裂の生じ方を見ても、素地が引っ張られて裂けたというより地割れに近い様相を呈しているといえる。



図3

同時代の伊万里焼では、主流の装飾技法ではないながら、イチチン技法のほか型紙摺り(文様部分を切りぬいた型紙の上から顔料を塗って文様をあらわす)などで白泥は用いられている。そうした中で、このイチチンを応用した装飾技法が登場することは、技法上無理のない展開といえる。とはいえ、この技法を用いた作例は管見の限りほかに見当たらない。それは、本作が生産数の少ない特注品や試作品であり、且つその後この技法が伊万里焼では浸透しなかったことを示している。その背景として、伊万里焼が産業製品であることが挙げられる。とくにこの時期は中国陶磁にかわって西欧を席卷した輸出全盛期で、高品質な陶磁器を効率的に大量に生産することが求められていた。亀裂が入れば当然価値が落ちるため、亀裂が入らないように乾燥速度を調整しながら陽刻文を作ることは量産に向かず採算が合わなかったのだろう。新たな挑戦に試行錯誤する中で淘汰されていった技法の一つだったと考える。

※本来、「陽刻」とは文様が浮き彫りになるよう彫り出すことをいうが、本稿では便宜的に、技法の如何にかかわらず、浮き彫り状の文様に対して用いている。

秋色を愛でる — 近代日本画を中心に —

2020年10月27日(火)－12月13日(日)

日本画の特徴の一つとして、四季折々の風情を大切にすることが挙げられます。季節に合わせて部屋を彩る日本画に、季節感が求められるのは自然なことと言えるでしょう。本展では館蔵・寄託の近代日本画を中心に、秋を描いた作品をご紹介します。美術館で秋をお楽しみください。



上村松園《晩秋》 昭和18年(1943)
本館蔵(住友コレクション)

写経 — 天平から鎌倉へ

2020年10月27日(火)－12月13日(日)



《紫紙金字華嚴経断簡》(部分)
奈良時代・8世紀 個人蔵

6世紀に仏教が日本に伝わると、7世紀には写経が行われるようになり、天平時代に至ってその最盛期を迎えます。「天平礼賛」展にあわせ、奈良から平安、鎌倉へと、時代の変遷とともに書体や装飾の姿を変えていく写経の美をご覧ください。

高き空から — 仏教美術 —

2020年10月27日(火)－12月13日(日)

この国の人々は遙か空の向こうに仏や菩薩などの超越的な存在をみとめ、憧れを抱いてきました。仏教美術は、そうした憧憬に突き動かされた人々により生み出されたものと言えるでしょう。

本展では、近畿一円の寺社よりお預かりしているご宝物を中心に、仏教美術の優品を展示いたします。同時開催の特別展「天平礼賛」と合わせ、先人たちの祈りの造形の数々をお楽しみください。



重要文化財《業師十二神将像》(部分)
平安時代・仁安3年(1168) 京都・仁和寺蔵

しょうじゅせんねん つい これく 松樹千年、終に是朽ちぬ — 絵画の中の自然美

2021年1月9日(土)－2月7日(日)

松は冬でも青く茂り、永く変わらない姿は繁栄の象徴です。しかし、千年の松樹といえどもいずれは枯れてしまいます。不変であることだけが価値ではなく、みじかく移ろう中にもまた美しさがあります。中国では、自然と人の生とはつねに連関して捉えられ、絵画の中にも表現されてきました。日常がおおきく揺らいだ昨今、先人の美意識に人生のヒントを探してみても良いかもしれません。



顧大申《老松飛瀑図》(部分)
清時代・康熙3年(1664)
本館蔵(阿部コレクション)

みわだべいざん 生誕200年 三輪田米山

— 大阪中之島美術館山本發次郎コレクション

2021年1月9日(土)－2月7日(日)



三輪田米山《無為》 明治時代・18-19世紀
大阪中之島美術館蔵

三輪田米山(1821-1908)は、江戸から明治にかけての愛媛松山の神官で、斗酒をあおって揮毫した書は、豪放な筆法、雄大な気宇で人気を博しています。その米山を「我が国近世五百年間不世出の大書家」と激賞して全国に知らしめたのは、他ならぬ山本發次郎でした。

富士礼賛 — 近世絵画を中心に —

2021年1月9日(土)－2月7日(日)

世界文化遺産にも登録される富士山は、古より信仰の対象となり、様々な芸術の源泉にもなってきました。江戸時代には富士講が流行したこともあり、富士を描いた作品が多く見られます。本展では館蔵・寄託の近世絵画を中心に、富士を描いた作品をご紹介します。



中林竹洞《神州奇観図》 江戸時代・天保8年(1837) 個人蔵

辛丑年 牛を描く

2021年1月9日(土)ー2月7日(日)

令和3年は丑年にあたります。牛は古くから家畜として飼育され、農耕や運搬を助けるなど、人々にとって大変身近な存在でした。のんびりとして愛らしいその姿は、日本の絵画の中にもしばしば登場します。新年を寿ぎ、近世・近代の日本画から牛を描いた作品をご紹介します。



橋本関雪《相牛図》 大正14年(1925) 個人蔵

江戸の南画

2021年1月9日(土)ー2月7日(日)



江戸も中期になると、国内外の様々な刺激を受けた個性豊かな絵師たちが登場します。なかには中国・南宗画の影響のもとに独自の新しい様式を追求した人々もいました。彼らの絵は南画もしくは文人画と呼ばれます。本展では館蔵・寄託の作品から江戸時代の南画をご紹介します。

岡田米山人《松竹梅図》
江戸時代・文化14年(1817) 本館蔵

磁州窯の陶枕

2021年1月9日(土)ー2月7日(日)

磁州窯系諸窯は、宋～金時代にかけて華北一帯で隆盛した、中国で最大規模を誇る民窯です。陶枕は、その代表的かつ特徴的な器種の一つです。日本では初夢に見ると縁起がよいものとして「一富士二鷹三茄子」という句がよく知られていますが、当時の中国の人々はどんな夢を願ったのでしょうか。枕にあらわされた文様からひもといてみましょう。



《三彩 庭園図枕》 磁州窯系 金時代・12-13世紀
本館蔵(山口コレクション)

あちこちの風光明媚

2021年1月9日(土)ー2月7日(日)

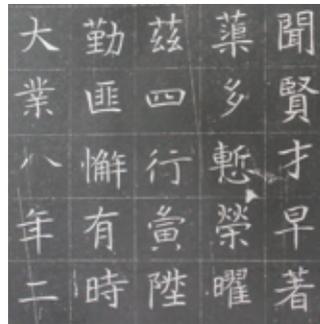
画家はほんとうに旅が好きです。自然が織りなす清らかで美しい眺めを精神的に歩き、新しい画想を求めて眼前の風景に筆一本で格闘を挑みます。近世絵画と日本洋画から名所・風景を描く作品を寄せ、風光明媚を巡る旅へのご案内します。



伝 雲谷等顔筆《杉桜図屏風》(部分)
桃山時代・17世紀 個人蔵

宮人たちへの鎮魂歌 — 隋の石刻

2021年2月20日(土)ー3月21日(日)



《宮人何氏墓誌》(部分)
隋時代・大業8年(612)
本館蔵(師古齋コレクション)

隋朝はわずか37年という短命に終わりましたが、南北朝を統一し唐朝の礎を築きました。書においては楷書の発展史上とても重要な時代で、特筆すべきは墓誌の豊富さとその魅力です。本展では楊帝の宮廷に勤めた「宮人」と呼ばれる女性たちの墓誌を中心にご紹介します。

花咲くやきもの REVIVAL!

2021年2月20日(土)ー3月21日(日)

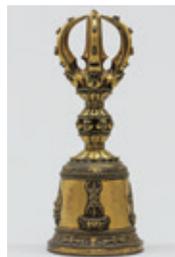
唐三彩、マイセン、富本憲吉など、館蔵・寄託の中から、花をモチーフとした古今東西のやきものを展示いたします。ちょうど1年前、新型コロナウイルス感染症流行のために、わずか6日間で閉幕してしまった展示のリバイバル展です。今度こそ！春めく季節、やきものに咲いた花々をお楽しみください。



《青花 花唐草文鉢》 景德鎮窯
明時代・15世紀
「大明宣德年製」銘 本館蔵

ニッポンのかがやき 本朝金属工芸史

2021年2月20日(土)ー3月21日(日)



重要文化財
《金銅三昧耶形五鈷鈴》
平安時代・12世紀
大阪・高貴寺蔵

銅鐸、銅鏡、仏具、刀装具、そして茶釜。日本の金属工芸の歴史は実に様々なジャンルの作品に彩られます。ここでは館蔵・寄託品から日本の金属工芸品をご紹介します。金・銀・銅・鉄といった素材、精緻な造形や繊細な文様、そしてそれらを可能にした技術など、その多彩な見どころにご注目ください。

特別展予告

トヨトミ
豊臣の美術

2021年4月3日(土)～5月16日(日)

天下統一を果たし、大坂に政治拠点を定めた豊臣秀吉、およびその一族が関わった桃山時代の美術工芸の粋を寄せた展覧会を開催します。

- 1 豊国大明神－天下人、神になる－
- 2 美麗無双－ゆかりの調度・名物－
- 3 大檀那豊臣－御用絵師と寺社・御殿の荘厳－
- 4 太閤追慕－豊臣政権と風俗画－

の全4章にわたり約80点で構成する予定で準備を進めています。徳川氏にゆかりある美術工芸品に比べれば、敗者である豊臣氏のそれは圧倒的に現存数が少ないのですが、御用絵師・



《豊臣秀吉像》(部分)
慶長5年(1600) 惟杏永哲賛
本館蔵(古賀勝夫氏寄贈)

狩野派による寺院障壁画や太閤秀吉ゆかりの風俗画のほか、高台寺蒔絵と呼ばれる優美な調度類、名物茶道具などが今日まで伝えられています。日本のルネッサンスともいわれる「夢」の時代が吹き放つ壮大な芸術的エネルギーを、どうぞ本展会場でご体感ください。

所蔵作品の貸出

他館への貸出を予定している当館の所蔵作品です。展示期間などの詳細は各施設へお問い合わせください。

《青銅 人物鳳凰飾龍把香炉》ほか 計3件 泉屋博古館(左京区) 2020年9月12日(土)～10月18日(日) 瑞獸伝来－空想動物でめぐる東アジア三千年の旅－	
赤松麟作《琵琶湖》ほか 計21件 岡山県立美術館(岡山市) 2020年9月26日(土)～11月3日(火・祝) 赤松麟作展	
北野恒富《夜桜》(住友コレクション) 京都文化博物館(中京区) 2020年10月6日(火)～11月29日(日) 舞妓モダン	
文嘉《琵琶行図》(阿部コレクション)ほか 計2件 大和文華館(奈良市) 2020年10月10日(土)～11月15日(日) 墨の天地－中国 安徽地方の美術－	
中川一政《自画像》ほか 計2件 調布市武者小路実篤記念館(調布市) 2020年10月17日(土)～11月29日(日) 『白樺』創刊110年 美術への情熱－160冊に込めた思い－	

◆表紙作品紹介

児玉希望《枯野》 昭和11年(1936) 本館蔵

月が昇る蕭条たる枯野に佇む1匹の狐。鋭い観察に基づく迫真の描写力と装飾性が見事に融和し、独自の世界が創造されています。大正から昭和にかけて活躍した日本画家・児玉希望による優品です。

新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策
にご協力ください

- <以下に該当される場合はご来館をお断りいたします>
1. 37.5℃以上の発熱やせきなど風邪の症状があるお客様
 2. ご家庭や職場、学校など身近に新型コロナウイルス感染症の感染者、もしくは感染の可能性のある方がいらっしゃるお客様
 3. 体調がすぐれないお客様
 4. マスクをご着用いただけないお客様
 5. 団体でご入場のお客様

<館内でのお願い>

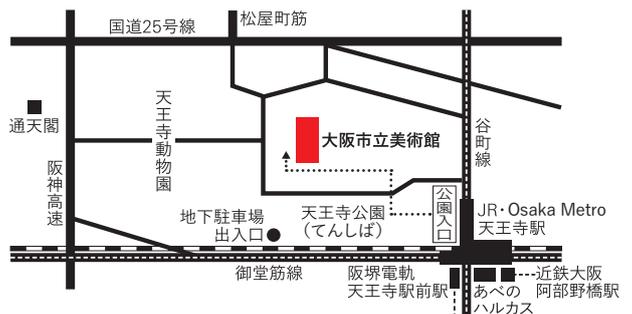
1. こまめな手洗いにご協力をお願いします。
各洗面所には液体石けんを、入口ほか各所に消毒液を設置しておりますので、ご利用ください。
2. 近距離での会話は、飛沫感染の恐れがありますので、展示室内での会話はご遠慮ください。
3. 展示室内の混雑を緩和するため、やむを得ず入場制限を行う場合があります。また、過度な混雑が見込まれる場合は、入場をお断りする場合があります。

従来とは異なる新たな鑑賞スタイルでご不便をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくごお願いいたします。

大阪市立美術館 天王寺公園内
Osaka City Museum of Fine Arts

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82
tel. 06-6771-4874 fax. 06-6771-4856
<https://www.osaka-art-museum.jp>

開館時間＝9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日＝月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は翌平日)



交通案内:Osaka Metro 御堂筋線・谷町線、JR「天王寺」、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」、阪堺電軌上町線「天王寺駅前」下車、または大阪シティバス「あべの橋」下車、北西へ約400m